

2008 年春季年会

年会プログラム

於 国立オリンピック記念青少年総合センター

2008 年 3 月 24 日 (月) ~ 3 月 27 日 (木)

日本天文学会

日本天文学会 2008 年春季年会プログラム

期 日 2008 年 3 月 24 日 (月) ~ 3 月 27 日 (木)

場 所 国立オリンピック記念青少年総合センター (東京都渋谷区)

電 話 090 - 4387 - 6893 <使用期間 2008 年 3 月 23 日 (日) ~ 3 月 27 日 (木) >

日 程

月日	会場	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
3月23日 (日)					記者会見		創立百周年記念講演会				
3月24日 (月)	A	受 付			A. 赤い銀河	特別講演 15:10-15:50 (F会場)	A. 赤い銀河				
	B				Y. 教育・他/L 太陽系		L. 太陽系				
	C				K. 超新星爆発		K. 超新星爆発				
	D				Q. 星 間		Q. 星 間				
	E				T. 銀 河 団		T. 銀河団/V. 地上観				
	F				N. 恒 星		N. 恒 星				
	G				S. 銀 河 核		S. 銀 河 核				
3月25日 (火)	A	B. あかり	昼休み (理事会)	ポスター	M. 太 陽	ALMA 特別 セッション 16:15 - 17:15 (F会場)	天文教育 フォーラム 17:30 - 19:00 (F会場)				
	B	U. 宇 宙 論			U. 宇宙論/R. 銀河						
	C	P. 星・惑星			P. 星・惑星						
	D	Q. 星間/J. 高密度星			J. 高密度星						
	E	V. 地 上 観			V. 地 上 観						
	F	ジュニアセッション			ジュニアセッション						
	G	W. 飛 翔 観			W. 飛 翔 観						
3月26日 (水)	A	M. 太 陽	昼休み (評議員会)	ポスター	学術会議 特別 セッション (F会場)	総 会 受 付 終 了 (F会場)	受賞記念講演 (F会場)		懇親会		
	B	R. 銀 河									
	C	P. 星・惑星									
	D	J. 高密度星									
	E	V. 地 上 観									
	F	X. 銀河形成									
	G	W. 飛 翔 観									
3月27日 (木)	A	M. 太 陽	昼休み	ポスター	M. 太 陽						
	B	R. 銀 河									
	C	P. 星・惑星			P. 星・惑星						
	D	J. 高密度星			J. 高密度星						
	E	V. 地 上 観			V. 地 上 観						
	F	X. 銀河形成									
	G	W. 飛 翔 観			W. 飛 翔 観						
3月29日 (土)		公開講演会									
		10	11	12	13	14	15	16	17	18	19

- A 会場 : センター棟 1F (101)
- B 会場 : センター棟 3F (309)
- C 会場 : センター棟 3F (310)
- D 会場 : センター棟 3F (311)
- E 会場 : センター棟 4F (416)
- F 会場 : センター棟 4F (417)
- G 会場 : センター棟 5F (501)

- 受 付 : センター棟 1F (103)
- 第1会議室 : センター棟 1F (104)
- 第2会議室 : センター棟 1F (105)
- 展示コーナー : ポスター会場 1
- インターネット室 : センター棟 1F (102)
- ポスター会場 1 : 国際交流棟 国際会議室
- ポスター会場 2 : 国際交流棟 第1ミーティングルーム
- ポスター会場 3 : 国際交流棟 第2ミーティングルーム
- 懇親会会場 : 国際交流棟 レセプションホール

◎講演数

講演数：合計 629

(口頭講演 (a)：379、ポスター講演 (b)：193、ポスター講演 (c)：57)

◎参加登録について (参加者は、当日必ず参加登録をして下さい。)

○参加費用

	会 員	非会員
参 加 費	3,000 円 (不課税)	5,000 円 (消費税込み)
(但し会員で講演有りの場合、参加費は無料)		
講 演 登 録 費	3,000 円 (不課税)	5,000 円 (消費税込み) (1 講演につき)
年 会 予 稿 集	1,000 円 (消費税込み)	1,000 円 (消費税込み) (購入希望者のみ)

○参加登録受付場所：受付 (センター棟 1F)

○参加登録受付時間：24 日 11:00～16:00
25 日～27 日 09:30～16:00

※参加費・講演登録費は、会期中に受付にて忘れずにご納付下さい。

※参加費用支払い時に渡される領収書は、所属機関で必要となる場合もありますので、大切に保管してください。

※講演登録者は、講演申し込み後にキャンセル等しても、講演登録費を支払う必要があります。

※懇親会に参加される方は、参加費・講演登録費の支払いに続いて、隣の懇親会専用の受付にて懇親会の参加費をお支払いください。

◎講演に関する注意

1. 口頭発表は7会場で行います。口頭講演 (添字 a) は、口頭発表 9 分、質疑応答 3 分です。ポスター講演 (添字 b) は、口頭発表 3 分、3 講演で 12 分を割り当て、座長の判断で質疑応答を行います。

※時間厳守：講演制限時間を超過した場合は、直ちに降壇していただきますので、講演者の皆様は制限時間を厳守できるよう特に万全の準備をお願いします。

2. ポスター発表 (添字 b)、(添字 c) は、3 日間掲示できます。ポスターは縦 180×横 90 cm まで掲示できます。ポスター会場の指定された場所に、3 月 25 日の 9:00 から 3 月 27 日の 14:00 まで掲示できます。終了後は速やかに撤去してください。
3. 講演には液晶プロジェクタまたは書画カメラをご使用下さい。液晶プロジェクタは、セッション開始前に PC の接続を確認して下さい。念のため、書画カメラでの発表もできるようにしておくとよいでしょう。なお、今回の会場の書画カメラは紙のみに対応しています。OHP シートは使えません。書画カメラ使用の場合は、A4 の紙で発表をご用意ください。講演時間は、直前の講演者が降壇した時点から計り始めます。迅速に講演が始められるよう、次の講演者は前の講演中に PC を接続しておいて下さい。

◎会期中の行事

1. 記者会見 : 23日(日) 13:00～14:00 学術総合センター 会議室
年会講演の中から、数件のトピックスを選び、記者会見を行います。
2. 創立百周年記念講演会 : 23日(日) 15:00～17:00 学術総合センター 一橋記念講堂
3. 特別講演 : 24日(月) 15:10～15:50 F会場
4. 理事会 : 25日(火) 12:00～13:00 第1会議室
5. ALMA 特別セッション : 25日(火) 16:15～17:15 F会場
6. 天文教育フォーラム : 25日(火) 17:30～19:00 F会場
7. 評議員会 : 26日(水) 12:00～13:00 第1会議室
8. 学術会議特別セッション : 26日(水) 14:00～15:00 F会場
9. 総会 : 26日(水) 15:00～16:30 F会場
(15:00～15:30 総会出席者確認、15:30 総会開始)
各賞の受賞
○ 2007年度事業報告
○ 2007年度決算報告
○ 監査報告
10. 受賞記念講演 : 26日(水) 16:30～18:00 F会場
林忠四郎賞受賞記念講演
研究奨励賞受賞記念講演
11. 懇親会 : 26日(水) 18:30～ 国際交流棟 レセプションホール
12. 公開講演会 : 29日(土) 11:00～17:00 有楽町朝日ホール

◎特別講演

テ ー マ : 「粒子天文学を切り開く：最高エネルギー宇宙線の観測と展望」

日 時 : 2008年3月24日(月) 15:10～15:50

場 所 : F会場

講 演 者 : 山本常夏(甲南大学・准教授)

概 要 : 宇宙観測は400年前にガリレオが望遠鏡を手にしたときから急速な発展を遂げてきた。望遠鏡の口径が大きくなるに従い宇宙における爆発的現象が明らかになっていった。活動的宇宙発見の歴史はより感度の高い、より高精度な、より大きな装置開発の歴史でもある。それに伴い観測計画は肥大化と国際化の一途をたどっている。一方で技術の発達新しい宇宙観測を可能にしている。21世紀の宇宙観測は多波長の光による観測に加え、ニュートリノ、宇宙線や重力波などを通して宇宙を多角的に観測することが可能になるだろう。特に宇宙線観測は極端に高いエネルギー領域を測定する唯一の手段である。この最高エネルギー領域宇宙線を前例のない高精度で観測するため南米アルゼンチンに巨大な宇宙線観測所が建設された。オージェ観測所と呼ばれるこの装置は、3000平方kmの領域に並べた1600個の粒子検出器と24台の大気蛍光望遠鏡からなり、17カ国から集結した科学者により観測が進められている。300億トンの地球大気を使った世界最大の宇宙線観測システムである。現在建設はほぼ終了しデータ解析が進められている。その結果最高エネルギー宇宙線の到来方向分布に異方性が確認された。高エネルギー荷電粒子による新しい天文学が現実のものとなったのである。

本講演ではこの最高エネルギー宇宙線の観測結果と将来計画について報告する。

◎ALMA 特別セッション 主催： 国立天文台 ALMA 推進室、国立天文台 ALMA 計画推進小委員会 特定領域研究「サブミリ波の宇宙」

テ ー マ : 「東アジア ALMA 地域センター構想と共同利用について」

日 時 : 2008年3月25日(火) 16:15～17:15

場 所 : F会場

概 要 : 日米欧3極による国際プロジェクトであるALMA(アタカマリ波サブミリ波干渉計)プロジェクトでは、チリ現地での本格的な望遠鏡建設が開始され、2年後には初期科学運用も計画されるなど、プロジェクトとして大きく展開する段階に入りました。

このALMAの科学運用の日本を中心とした東アジアの中核となるのが、東アジアALMA地域センター(EA-ARC)です。EA-ARCは、ALMA観測所(JAO)や米欧の各ALMA地域センターと共同して望遠鏡の運用や保守を行うとともに、東アジアの天文学者に対してALMAの共同利用にかかわる様々なサービスを提供し、この地域でのミリ波サブミリ波領域の観測的研究をリードしていく役割が期待されています。本特別セッションでは、これまで検討されてきたEA-ARCや共同利用の構想を紹介するとともに、多くの研究者に議論していただいて、EA-ARCをふさわしい姿にしていく一つの場にしていきたいと思ひます。

プログラム : 1. 進むアルマの建設 長谷川哲夫(国立天文台ALMA推進室)
2. 東アジア地域センターについて 立松健一(国立天文台ALMA推進室)
3. コメント 河野孝太郎(東京大学天文学教育研究センター)
4. コメント 大橋永芳(台湾中央研究院天文及天文物理研究所)
5. 討論

世 話 人 : 森田耕一郎(国立天文台ALMA推進室)、立松健一(国立天文台ALMA推進室)
中井直正(筑波大学大学院数理物質科学)

連 絡 先 : 森田耕一郎(国立天文台ALMA推進室) Email: morita@nro.nao.ac.jp 電話: 0422-34-3742

◎天文教育フォーラム

共催：天文教育普及研究会

テーマ：「今、求められる天文学・天文教育とは」

日時：2008年3月25日（火）17：30～19：00

場所：F会場

概要：日本天文学会は、2005年7月14日付けで、中央教育審議会会長および初等中等教育分科会長宛に、「次代をになう子どもに豊かな科学的素養を」と題する要望書を出しました。その要望は、(1)現代の宇宙観を含む科学的素養が身につく教育課程にすること、(2)小中高校において、宇宙について持続的・系統的に学べることの2点でした。現在、次期学習指導要領の指導内容素案が文科省から中央教育審議会の専門部会に示され、今後教育課程部会などで議論される予定です。現在の指導要領では、天文関係の内容は小学校4年と中学校3年にしかありません。しかし、今回の指導内容素案によれば、小学校4年で「月と星」（月の動き；星の色、明るさ；星の動き）、小学校6年で「太陽と月」（太陽と月の形；月の表面の様子）、中学校2年で「地球と宇宙Ⅰ」（日周運動と自転；年周運動と公転 [中3から移行]）、中学校3年で「地球と宇宙Ⅱ」（月の動きと見え方；太陽系と惑星、恒星；銀河系と銀河）という内容に拡充されています。これはまさに天文学会が出した要望書にかなりの部分が沿ったものとなっています。基礎学力の低下問題の懸念に対し、現在の指導要領に比べ学習内容を大幅に増加する方針の中央教育審議会の流れに沿ったものとは言え、天文関係の内容に対してこのような原案が出されたことは、日本天文学会や天文教育普及研究会などの日頃の活動が実を結ぼうとしていることだと言えるのではないのでしょうか。

このように、天文分野が増えるのは我々にとって喜ばしいことだと思いますが、一方で、学校現場で最も指導しにくい理科の単元が天文分野であるという調査結果もあります。天文学の成果の社会還元という視点からみると、その最前線に立っているのは学校現場の教員の方であると言えます。今回は、このような状況の中、現代の日本社会から求められる、あるいは逆に社会にアピールすべき天文学・天文教育とは何か、また、学校現場で天文分野を教える教員の方々に対してどのような支援ができるのか、どのような支援が期待されているのかなどについて、幅広い立場から議論してみたいと思います。

話題提供者としては、以下の4名の方を予定しています。その後、この4名の方を中心として、パネルディスカッションを行い、会場の皆さんと認識を共にし、議論を深めたいと思います。

- 話題提供：(1)「今日までの学校教育における天文学習の流れ」 縣 秀彦（国立天文台）
(2)「教育課程部会の審議の経過説明と今回の改訂のねらい～特に天文分野について～」
田代直幸（文部科学省・初等中等教育局・教育課程課）
(3)「学校現場で期待される天文コミュニティによる支援」
加藤明良（さいたま市立上木崎小学校）
(4)「日本社会から求められる天文学・天文教育とは」 高柳雄一（多摩六都科学館）

司 会：高橋 淳（茨城県立水海道第一高等学校）

実行委員：沢 武文（愛知教育大学）、高橋 淳（茨城県立水海道第一高等学校）

縣 秀彦（国立天文台）、松本直記（慶應義塾高等学校）

◎日本天文学会創立百周年記念講演会

日時：2008年3月23日（日）15：00～17：00（開場14：30）

場所：学術総合センター 一橋記念講堂（千代田区一ツ橋）

基調講演 「日本天文学会百年の歩み」 土佐 誠（日本天文学会理事長）

日本天文学会創立百周年事業の紹介

記念講演 「天文学の百年」 尾崎洋二（東京大学名誉教授）

◎日本学術会議特別セッション

主 催：日本学術会議物理学委員会天文学・宇宙物理学分科会
共 催：日本天文学会

テ ー マ：「天文学・宇宙物理学長期計画について」

日 時：2008年3月26日（水）14：00～15：00

場 所：F会場

主 旨：現在、日本学術会議物理学委員会天文学・宇宙物理学分科会（海部委員長）は、これからの20年を見通した天文学・宇宙物理学の動向の議論と長期計画の策定のための活動を続けています。この結果は日本学術会議の報告として2009年の3月に出版される予定です。この報告書は、今後の我々の分野における研究の方向性を打ち出すものであり、今後の大型観測施設、望遠鏡、天文衛星、シミュレーション用大型計算機の建設などの計画に大きく影響するものとなると考えています。当然その内容は我々のコミュニティの総意に基づくものでなければなりません。天文学・宇宙物理学分科会では、各分野の研究者からヒヤリングをおこなったり、また、新進の研究者から今後の天文学・宇宙物理学の方向について思うところを語って頂く、学術会議シンポジウム「天文学・宇宙物理学の展望－長期計画の策定へ向けて－」（日本天文学会、日本物理学会、日本惑星科学会後援、2007年12月）を開催するなどの活動を続けております。

本特別セッションは、このシンポジウムの成果をうけ、天文学会会員から20年スケールにおける我々の分野のあるべき長期計画について広く意見を求め、また今後の長期計画の策定について会員の意見を交換することです。多くの会員、特に大きなプロジェクトを進めようとしている研究者、今後それらを使って研究をすることになる若手の研究者の出席を求めたいと思います。

プログラム：1) 主旨説明（10分） 海部宣男
2) 日本学術会議シンポジウム「天文学・宇宙物理学の展望
－長期計画の策定へ向けて－」（2007年12月）報告（20分） 佐藤勝彦
3) 討論：天文学・宇宙物理学の方向と計画（30分）
i) シンポジウム講演者等による長期計画策定の提言
ii) 今後の長期計画の策定について

世 話 人：海部宣男、佐藤勝彦（窓口）、杉山 直

◎公開講演会－日本天文学会創立百周年を記念して－

テ ー マ：「天文学 これまでの百年、これからの百年」

日 時：2008年3月29日（土）11：00～17：00（開場10：30）

場 所：有楽町朝日ホール（朝日新聞記念会館）

対 象：中学生以上・一般向け

※入場無料、事前の参加申し込みは不要です。当日ご自由においで下さい。

第一部

講 演：「天文愛好家と天文研究者の100年」 山岡 均（天体発見賞選考委員会委員長、九州大学）

第二部

講 演：「z項から100年－「すばる」望遠鏡の時代に－」

小平桂一（総合研究大学院大学 学長）

講 演：「宇宙空間からの天文学の発展」

井上 一（宇宙航空研究開発機構 宇宙科学研究本部長）

講 演：「宇宙論の現状と展望」

佐藤勝彦（東京大学大学院 教授）

春季年会会場 (国立オリンピック記念青少年総合センター) のご案内 <http://nyc.niye.go.jp/>



- ①小田急線参宮橋駅を使う場合（徒歩約7分）。参宮橋駅は新宿駅から各駅停車で約3分、新宿駅は中央線快速で東京駅から約15分です。
- ②東京地下鉄千代田線代々木公園駅を使う場合（4番出口から徒歩約10分）。代々木公園駅は地下鉄丸の内線東京駅から乗り換え込みで約30分です。

※車両の乗り入れはできませんのでご注意ください。

国立オリンピック記念青少年総合センターの構内図



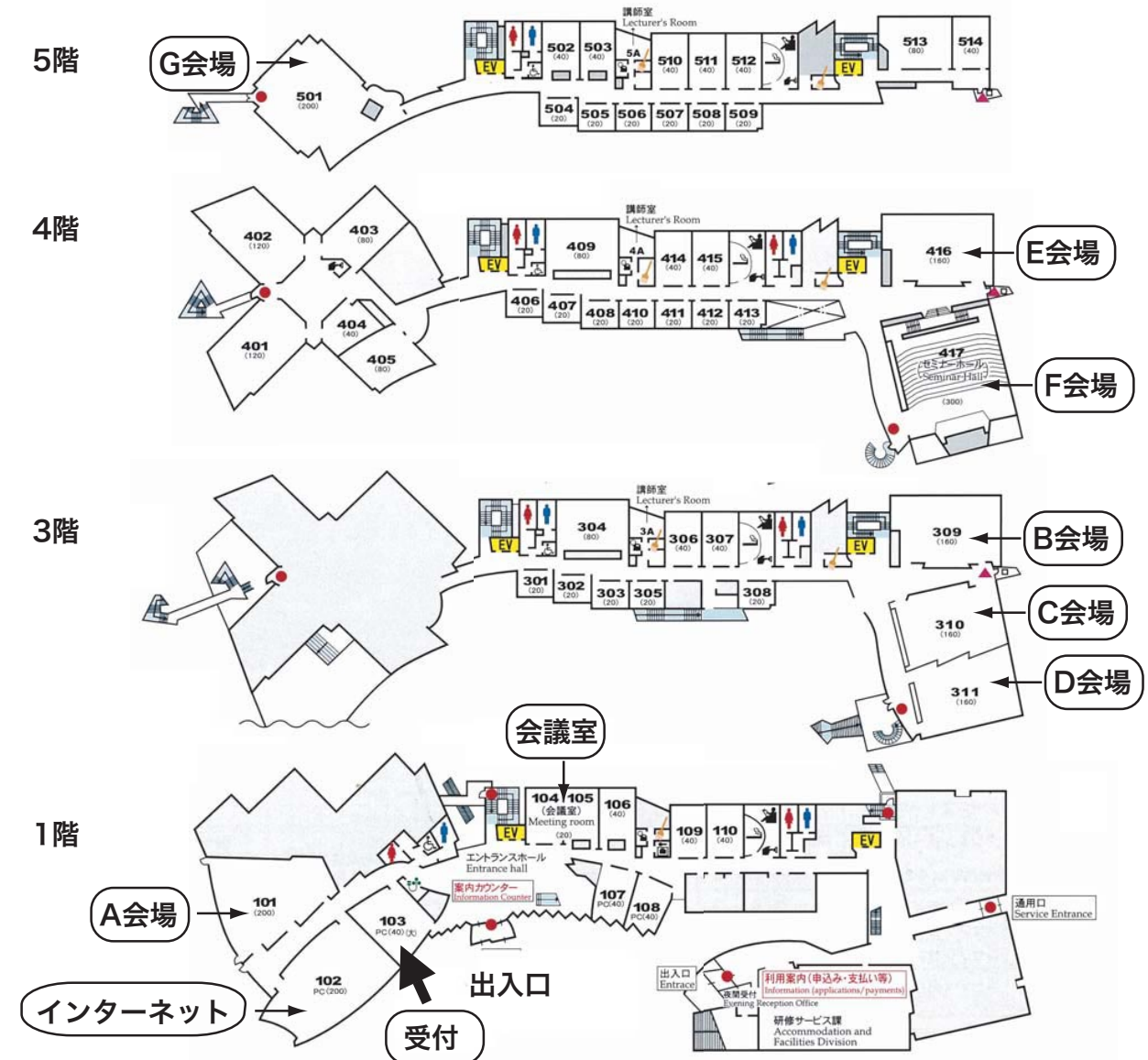
受付、講演会場、各種会議の会場はすべてセンター棟にあります。
 ポスター会場と懇親会会場は国際交流棟にあります。

レストラン (<http://nyc.niye.go.jp/facilities/d2-6.html>) :

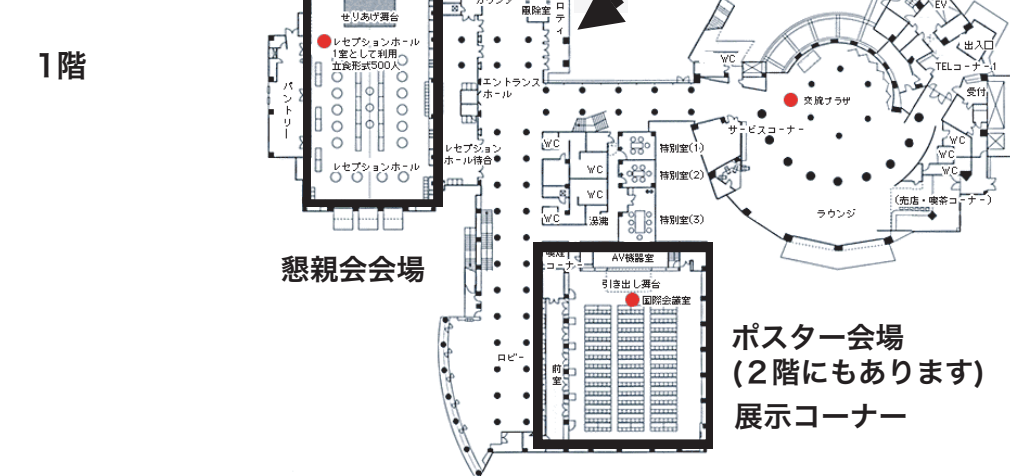
- カフェテリアふじ（センター棟2階、500席）
- カフェ フレンド（センター棟2階、50席）
- レストランとき（カルチャー棟2階、190席）
- レストランさくら（宿泊棟D棟9階、60席）
- 売店（宿泊棟D棟1階、日用品、文具、菓子など）

※国立オリンピック記念青少年総合センターの近くにはレストランや売店はありませんのでご注意ください。

センター棟



国際交流棟



※青少年センターは屋内・屋外ともに禁煙です。喫煙は喫煙コーナーに限られています。
 ※会場や廊下での飲食はご遠慮ください。